

コロナ禍の新日美特集【第3報】

神の手と芸術と数学と

会員 菅野正人



菅野 正人

山梨の宝水晶をカットする技に「一八〇面体桔梗カット」がある。この技を編み出した清水さんは、世界で一人「神の手」を持つ職人と呼ばれている。

数学では、正七角形も描けないことが証明されているので、神聖幾何学立体と呼んで神秘化している。

私は、拙著「素数と魔方陣」をテーマに、数学と宇宙を繋ぐアート作品を発表してきたが、数学で描けないと証明された形でも、宇宙空間にはマトリョーシカのようにフラクタルな形で無限に存在しているので、その中から適当な大きさのマトリョーシカを一個取り出して見ようと言うようになつて見れば、次世代幾何学で、ペークラ展開図を描いて、組み立てるだけで、私達でも、清水さんのような「神の手」を持つこと

が出来るようになる。

彫刻の森美術館に「神の手」という野外彫刻がある。清水さんの「神の手」の話聞いて、三〇年くらい前にこんな絵を描いた事を思い出した。考えてみると、「神の手」の彫刻をキャンバスに描き出した私の手も「神の手」といえるかも知れない。

どんな世界でも一つの道を追究していけば、神様の任意のきまぐれを包含して、「神の手」に並ぶ事ができる。

宇宙の真理を追究する人間の可能性は無限である。



世界で一人の水晶カット職人が描き出す神技カット

横浜で『光怜(みれい)窯』一五周年

委員 石川 玲子



石川 玲子

工房光怜(みれい)窯を開設して一五年。各教室も二年以上経ちました。公募作品も対応できる大きさに電気、耐熱工事等拘つての特注窯。住宅地故にご近所への配慮で夜スタート。

天候、湿度、窯の中身などで調整が違つるので一三時間程の焼成温度を二時間毎にチェック。全て機械に任せれば楽ですが微妙な調整を考えたら徹夜は仕方ないです。勘を信じての作業で、焼成後の窯を開ける瞬間がたまらない喜びです。

NY駐在中に中世ヨーロッパ発祥のポーセリン・レースドールと帰国直前に出会い魅了され、後ろ髪を引かれての帰国でした。

NYではろくろ陶芸とスタンドグラスに没頭。布やレースなどの繊維に液体粘土を染み込ませる日本では珍しい陶芸ですので、帰



陶芸作品「こころ穏やかに」

オリジナル粘土は100種以上



国後学びの場を探すものが見つからず、やっと見つけた工房で熱中しました。独立後現在の工房で独自の粘土、釉薬、制作方法を確立し、上絵付けとは違い粘土に調合した金属を練り込み、焼成で発色する繊細な色彩の開発努力をしております。

ヨーロッパ伝承の陶芸と日本文化の融合を人形だけに限らず、造形出きるものに表現していきたいと思うと共にご支援に感謝しております。